http://www.jaaso.or.jp/

JAあそだより

平成28年8月

残暑お見舞い申し上げます

■今号16ページ　主な内容

- JA阿蘇第15回通常総代会を開催
- 生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報
- 青壮年部・女性部の活動、取り組み

など話題満載！

2016 夏 VOL.88

阿蘇農業協同組合

本所　〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111／FAX 0967-23-1088

西原村「白糸の滝」（平成27年撮影）

JA阿蘇「第15回通常総代会」開催

熊本地震による甚大な被害に役職員一丸となり組合員と共に復興を進める

開会挨拶を述べる原山寅雄組合長

ＪＡ阿蘇第15回通常総代会が６月24日、総代やＪＡ阿蘇役職員をはじめ管内自治体首長ら多数の来賓を迎え、高森町民体育館で開催されました。

開会にあたり原山寅雄組合長は「未だ経験したことのない地震により大災害が発生し、被害を受けられました組合員の皆様には心よりお見舞い申し上げます。地震により、建物・農地等に甚大な被害が及びましたことに対し、ＪＡ阿蘇といたしましても役職員一丸となり、組合員の皆様と共に一歩一歩復興に向け進んでいく所存でございます」と挨拶。来賓祝辞、出席人員報告後、議長に岩本新一氏（小国町）を選任し、議事に移りました。

議事では、＝「第１号議案」平成27年度事業報告及び剰余金処分案について、（報告事項）平成27年度貸借対照表、損益計算書、注記表及び附属明細書について、「第２号議案」平成28年度事業計画及び関連事項について、「第３号議案」定款、定款附属書役員選任規程の変更について、「第４号議案」規約の変更について、「第５号議案」信用事業規程の変更について、「第６号議案」規程類の改正について、「第７号議案」ＪＡ阿蘇活動総合３ヶ年計画について、「第８号議案」役員の補欠選任について、「第９号議案ＴＰＰ協定に関する特別議決、「第10号議案」平成28年熊本地震からの復旧・復興に関する特別議決について＝執行部より提出され、質疑応答が行われた結果、全議案とも承認されました。

尚、総代会開会に先立ち平成27年度表彰（営農関係者・共済契約高額者・永年勤続者）が行われました。

写真上＝岩本新一議長によって進行される議事
写真中・下＝平成27年度表彰の方々

会場で資料に目を通す総代会出席者

熊本県庁で「阿蘇メロン」試食宣伝会

白水メロン部会は６月１日、熊本県庁で「メロン試食宣伝会」を行いました。この催しは多くの県民に阿蘇メロンの美味しさをＰＲするために、白水メロン部会が毎年開催しています。

当日は生産者ら６人が、約80玉を１玉５００円で販売始めると２時間ほどで完売となりました。試食した人からも「甘くて美味しい」と好評でした。

今年は購入者から地震の被災状況や生産者の安否を心配する声も聞かれました。同部会はポジティブリスト制度を遵守し、生産者が特定できるよう生産者番号入りのシールを１玉ずつ貼って出荷しています。（右写真＝県庁での「阿蘇メロン」試食宣伝会）

慶祝者19人（喜寿9人・米寿10人）を表彰
農林漁業団体退職者連盟阿蘇支部総会

挨拶する井一男支部長

農林漁業団体退職者連盟阿蘇支部は6月28日、阿蘇市で会員ら約55人が参加し第1回通常総会を開き、2016年度活動計画など全4議案を承認しました。井一男支部長は「受給者の生活安定を図る活動をはじめ、会員の加入促進・連盟組織の強化等を重点的に取り組んでいきたい」と挨拶。15年度慶祝者として喜寿の9人、米寿の10人に表彰状と記念品を贈りました。

総会後は、県農林年金相談員の堀春美さんの講演が行われました。

（写真上＝当日出席した慶祝者の方々）

震災を乗り越え初出荷
JA阿蘇「夏秋トマト」出発式

「夏秋トマト」出発式でのテープカット

6月10日、JA阿蘇中部新選果場で生産者やJA関係者ら約80人が参加し、夏秋トマト出発式が行われました。

4月14日と同16日の熊本地震により阿蘇地域も甚大な被害を受けましたが、トマト生産者への影響は南阿蘇では土砂崩れの発生、水脈の枯渇。阿蘇市では断層による地盤のずれ、圃場内での水の自噴などが起き、施設・栽培環境への被害も甚大で、地震発生が定植ピークと重なり、停電による潅水不足が多発し、圃場内の亀裂、南阿蘇村長野地区では土砂崩れにより3戸約50aでハウスが倒壊するなど、今でも作付けができない状況が続いています。

出発式では、地震のさなかに定植し被災者でもある生産者が丹精込めた夏秋トマトが出荷されました。

トマト生産協議会の山邊康弘会長は「被災による作業の遅れを引きずりながら、皆さん日々頑張っておられます。今後1玉でも多く、今からが旬の良いトマトを消費者に食べて頂くという思いで、トマトをしっかり作って、熊本の復興、JA阿蘇は元気だぞという思いを絶やさずに頑張って、生産して頂きたい」と力強く語り、阿蘇地域世界農業遺産推進協議会委員長でJA阿蘇の原山寅雄組合長も「被災された中で、農家の方は大変苦労されていると思いますが、こうして無事出荷ができることに感謝致します」と述べました。

当日はくまモンや地元保育園児も参加し、園児らは「トマト大好き。早くトマト食べたい」と歓声をあげていました。JA阿蘇の夏秋トマトは生産者数217戸、栽培面積58haで、西日本一の生産量を誇り、県内及び九州・中国地方へ年間155万ケース（1ケース4kg）、6200tが11月末まで出荷される予定です。

写真右上＝山邊会長、左上＝原山組合長、写真中＝新鮮なトマトに大喜びの園児、写真下＝出発式にはくまモンも参加

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

白水メロン部会の「場外ホームランメロン」今季も産地直送で有利販売

白水メロン部会では、5月中旬より期間・数量限定の「場外ホームランメロン」の出荷が始まりました。6月上旬の取材時、連日のように全国へと出荷されていました。今年は果実肥大の終盤に熊本地震が発生しましたが、大きな影響はなく味と品質は例年に負けない出来となりました。「場外ホームランメロン」は、白水メロン部会が有利販売を行うために作ったオリジナル規格で、栽培方法は通常は1株に6個着果するのを3個に制限し、大玉で甘い「場外ホームランメロン」を作ることが可能となりました。大きいものでは1玉が2kgを超えるものもあり、固定客も年々増え、県内はもちろんのこと東北地方まで贈答用がメインとして、大半が生産者から直送されました。

（写真上＝南部地区で出荷が始まった「場外ホームランメロン」／6月6日頃撮影）

高森地区赤肉系メロン「レノン」7月上旬メロンリレー締めくくる

高森メロン部会の赤肉系メロン「レノン」が7月上旬、出荷終盤を迎えました。高森地区はJA阿蘇管内でのメロンリレー販売の最後を締めくくる地区となっており、阿蘇産メロンのシーズン終了を市場に知らせる役割も担ってきました。高森地区では他産地との違いを出すために赤肉系メロンの生産に力を入れ、市場評価は年々高まっています。今年は比較的順調に生育し、熊本地震の影響もあまり受けず、品質も良好で糖度も15度以上と例年に負けない仕上がりとなり、出荷は例年より早く5月中旬より始まりました。

南部地区のピーマン 定植時期遅らせ出荷数量をキープ

南部地区では、5月上旬に定植されたピーマンが順調に生育しました。同地区では昨年より晩霜被害を避けるため定植時期を7～10日程度遅らせ、また部会の栽培基準で定植時期を揃えたことで、出荷ピークの数量を確保することも可能となりました。ピーマンの出荷形態も「バラ詰め」が中心でしたが、単価の底上げを目指し「袋詰め」出荷に昨年より取り組んでいます。

販売担当の藤吉友也職員は「今年も赤肉メロンの魅力を多くの方に味わって頂いた。今後とも安全・安心な高品質メロンを消費者に届けていきたい」と抱負を語っていました。（写真上＝検査する担当職員。6月下旬の取材時、日量150ケース（1ケース5kg）が出荷されていました）

指導担当の堀畑善美職員は、「梅雨時には病気が多発することもあったので、雨の前後に徹底した防除を呼び掛けた」と話していました。2016年産は生産者42人（前年同）、作付面積5.5ha（同）となっています。（写真上＝管理作業をする生産者／6月3日頃撮影）

ヒゴムラサキを市場関係者にPR 手応えあった！試食宣伝会

南部なす部会は6月14日、特産「ヒゴムラサキ」の試食宣伝会を熊本大同青果㈱で行いました。今回で4年目となる試食宣伝会は、量販店などと取り引きする仲卸業者にヒゴムラサキの美味しさをPRすることで、新たな販路拡大へ繋げることが目的です。

当日は桐原勝幸部会長ら生産者2人が参加し、朝競りに合わせて試食宣伝会を行い、試食と同時に様々なレシピも紹介しました。試食した仲卸業者か

写真＝好評だった試食宣伝会

※次ページに続く

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

※前ページより続く

らは「生で食べても美味しかったが、いろんな調理方法があり、さらに美味しく食べることができた」と好意的な感想が聞かれました。

桐原部会長は「まずは買い手に味を知ってもらうことが大事。そして、その美味しさを小売店などへ繋げてもらいたい」と、今回の試食宣伝会に手応えを感じていました。販売担当者の藤吉友也職員は「地元での知名度がまだまだ低いので、試食宣伝会等で美味しさを知ってもらい、同時にヒゴムラサキという名前を定着させていきたい」と今後の課題を話していました。

連携強化と高品質の確保で目標販売高6000万円 南部なす部会

南部なす部会は6月23日、2016年産出荷査定会を高森中央支所で開き、生産者ら約40人が参加しました。

本年産の出荷は5月下旬より始まっていますが、本格的な出荷を前に各等級や出荷要領の確認を行いました。

冒頭に桐原勝幸部会長が「震災に負けずに、安全・安心なヒゴムラサキを消費者に届け、同時に販売促進にも昨年以上に力を入れていきたい」と力強く挨拶しました。

当日は、販売促進や高品質維持の対策として、生産者と市場担当者との意見交換を密にして、選別の徹底や目慣らし会を定期的に開いていくことなどが話し合われました。また、査定会では市場関係者とJA販売担当者が一緒になって等級の確認を行い、市場側からは「売れる商品作りを意識して、毎日出荷してもらいたい」との要望がありました。

販売担当の藤吉友也職員は「販売先との情報交換を密にすることで、消費地が求める品物をさらに提供できる産地にしたい」と意気込みを語っていました。

同部会では産地情報をいち早く届けるために、写真付きの生育状況に過去の出荷データや近況の等階級比率を記入した「産地概況報告書」を作成し、定期的に市場へ送信していくことにしています。

今年は12月まで出荷計画を立てており、3万2600ケース（1ケース7kg）、6000万円の売り上げを予定しています。

査定会に出席した生産者のみなさん

JA職員による等級の確認

挨拶する桐原部会長

目標販売額1億3300万円「力ある産地づくり」目指す 白水ミニトマト部会

白水ミニトマト部会は6月21日、2016年産出荷査定会を高森町で開き、生産者ら約50人が参加しました。

冒頭に後藤光栄部会長が「阿蘇の元気な姿を見せるためにも、生産者一丸となって消費者に届けていくので、市場担当者の皆さんも売り込みを強化してほしい」と挨拶しました。販売基本方針として、名実ともに夏秋ミニトマトのリーダー産地となるために、品質安定と生産量確保に努め「力のある産地づくり」を目標に掲げました。

今年は震災の影響によりハウス損壊や地面の亀裂など約14aの作付に影響が出ていますが、担当の古澤勝己職員は「今後は潅水や追肥など樹勢維持に重点を置いた指導していきたい」と話していました。同部会は過去に県野菜振興協会より団体功労賞を受賞。長年にわたり高品質商品を出荷しており、市場より高い評価を得ています。

今年は11月まで、出荷数量95万パック（1パック200g）、販売額1億3300万円を予定。作付概況は生産者19人（前年比106%）、作付面積4.6ha（同）となっています。

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

南部トマト部会＝目標販売高5億8000万円 さらに、産地情報の精度向上を目指す

写真上＝査定会に出席した生産者のみなさん
写真下＝挨拶する興梠部会長

JA阿蘇南部トマト部会は6月15日、生産者や市場関係者ら約150人が出席し、2016年産南部トマト部会出荷査定会を高森町で行いました。

冒頭、興梠和夫部会長は「熊本地震により被害を受け、トマトを作りたくても作れない仲間がいるので、その方々の気持ちを理解して、昨年以上に生産者一人一人が頑張ってほしい」と挨拶しました。

同部会では、震災の影響でハウス損壊や地面の亀裂などにより約80aに影響が出ており、3人の生産者が作付けできない状態となっています。

査定会では、本格的な出荷を前に選果場への持込要領などについて協議が行われました。今年は全体的に定植後の活着が良好で、果形の乱れもなく順調な生育となっており、7月上旬に出揃い、同中旬以降に出荷ピークになる見込みです。販売担当の後藤辰徳職員は「震災時、多くの方々から心配の声や支援を頂き感謝している。その分、美味しい阿蘇トマトを消費地に自信を持って届けていくことで、阿蘇の元気な姿を見せたい」と話していました。

2016年産作付面積は19・4ha（前年比95％）、栽培戸数67戸（同95％）となっており、6月より11月まで出荷数量45万ケース（1ケース4kg）、販売高5億8000万円を計画しています。

目標販売高1億5000万円 選別徹底で高品質を維持しよう 蘇陽野菜共販運営会

挨拶する山口高則会長

蘇陽野菜共販運営会は6月28日、蘇陽夏秋野菜合同出荷査定会を山都町役場蘇陽総合支所で開催し、生産者ら約80人が出席しました。

出荷査定会では、2016年産の販売基本方針や出荷規格について確認しました。冒頭、山口高則会長が「震災や土砂災害などが起きているが、生産者一丸となって乗り越えていきましょう」と力強く挨拶。

その後、蘇陽地区の代表的な5品目の出荷要領や出荷規格について担当者より説明が行われました。また農薬の安全使用や、生産方針と選別の徹底による品質確保などの販売方針についても説明が行われました。

今年は5品目合計で出荷数量24万1000kg（前年比101％）、販売高1億5145万円の売り上げを計画しています。

出荷規格などの説明を受ける生産者の皆さん

JA職員による出荷要領の説明

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

「阿蘇高原りんどう」出荷中 8月お盆と秋のお彼岸がピーク 荻の草りんどう部会

出荷作業に追われる後藤さん夫妻

一の宮町荻の草地区では、熊本県花でもある阿蘇高原りんどうの出荷が6月下旬より始まっています。

荻の草りんどう部会は生産戸数7戸・栽培面積6.4haで計画出荷本数60万本（実績比105%）、計画販売金額3600万円（同120%）を見込み、11月上旬頃まで九州管内を中心に出荷が行われます。ピークは8月のお盆と秋のお彼岸向け頃となっています。

同荻の草地区は標高約780mにあり、年間を通じて冷涼な地域に位置しているため、積算気温が比較的低く高品質なりんどうに仕上がり、九州一の生産量を誇っています。品種は極早生系～晩生系を栽培し、出荷時期にあった作型体系となっており、現在（取材時）出荷中の早生系は、品質良くボリュームもあり市場の評価も好評です。

生産者の後藤孝治さんは「長雨の影響により品質低下が心配だが、管理をしっかり行い、他県産地に負けない高品質りんどうを提供できるよう頑張りたい。」と話していました。

販売担当の酒井正光職員は「市場への情報提供をしっかり行い、優位販売を目指し計画出荷額を達成できるよう販売していきた」と意気込みを語っていました。

徹底選別で高品質を維持 販売高5100万円達成目指す 南部キャベツ部会

挨拶する後藤賢治部会長

南部キャベツ部会は7月1日、関係者ら約30人が出席し2016年産出荷査定会を蘇陽集荷場で開きました。

JA職員による等級の確認

査定会を前に後藤賢治部会長が「震災に負けず安全安心なキャベツを消費者に届けていくためにも、選別の徹底による高品質の維持をしていきたい」と力強く述べました。

部会ではその対策として、市場担当者との意見交換を密にして、選別や品種特性に見合う基本管理の徹底を確認しました。

査定会では市場関係者とJA販売担当者が一緒になって等級の確認を行い、市場側からは「売れる商品作りを意識して毎日出荷してもらいたい」と要望が出されました。

販売担当の甲斐亮太職員は「販売先との情報交換を密にすることで、消費地の求める品物を作っていける産地を目指したい」と話していました。

今年11月までの出荷計画では、412t、5100万円の売り上げを予定しています。

南部花卉総合部会 トルコギキョウを中心に 販売額2億950万円見込む

南部花卉総合部会は7月1日、2016年度南部花卉合同出荷会議を高森町で開き、生産者ら約50人が参加しました。会議冒頭に芹口民雄部会長は「地震により、大なり小なりのダメージを受けたが、阿蘇は元気だということを出荷する花を通じて伝えていきたい。市場も産地と一丸となって、目標販売高を必達したい」挨拶しました。

当日は出荷市場9社の担当者も参加し、合同会議の前に現地にて生育状況の確認も行われました。参加した市場関係者からは「スムーズな販売を行うためにも精度の高い情報提供を産地に求めていきたい」とか「夏場の市場に南部地区は重要な産地となっている」など、期待する声が多く聞かれました。

同地区の花卉栽培は、トルコギキョウの生産量がいちばん多く、年々露地栽培のグラジオラスやヒマワリ、リアトリスなどの生産量も微増しています。今後はトルコギキョウを中心に、12月下旬まで様々な花卉の出荷が行われます。2016年産は南部地区全体で出荷本数228万本、販売金額2億950万円を見込んでいます。

JAあそだより No.88

もしもの場合、お役に立ちます！

私たちJA阿蘇のライフアドバイザー(LA)です。

ＪＡの「建物更生共済むてき」なら、地震はもちろんのこと、火災や盗難などの事故も、台風、大雪、竜巻などの自然災害による損害も、しっかり保障します。
ご契約の対象である建物や家財等の動産について発生した火災や自然災害によって、ケガをされたり、死亡されたときには、傷害共済金をお支払いします。
私たちにお気軽にご相談ください！

ＬＡトレーナー

秋吉　武臣

中島ひろみ

本田 雅康

波　野

工藤　邦春

阿 蘇 町

阿部　泰隆

井野　静代

永富　浩司

鎌倉　柳二

吉田　紀子

荒木美智代

佐藤　邦博

小島　多美

松本　博美

一 の 宮

井手　友和

高橋　鶴也

中嶋　幸代

石田　義則

山部　聡輔

南部Aブロック

芹口　博昭

小林　勝人

市原　俊昭

西村　友一

中川　慎一

中島佐代子

長野　淑美

野田　昭子

小 国 郷

伊藤　豊

永野　幸雄

出口　創平

金丸　美和

橋本　潤一

大塚　孝政

北　千春

堀川 美紀

産　山

佐藤ひろみ

南部Bブロック

春木　光幸

工藤　真紀

甲斐　義昭

今村　英喜

春日　睦子

阿南喜和子

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

中部トマト部会 過去最高の出荷量へ 販売額14億円を目指す

連日、選別作業に追われる作業員

中部トマト部会では、7月上旬より全トマト生産者の出荷が出揃い、最初のピーク迎え順調な出荷が行われています。今季の作付はサカタ種苗「りんか409」で、作付面積は38・42ha（前年比105％）、生産者数150戸（同）、出荷予想量は109万ケース（1ケース4kg）で、現在（7月上旬取材時）、日量1万ケースを九州管内・関西方面に出荷し、昨年の販売額13億円の107％増の約14億円を見込んでいます。

指導員の宮崎大智職員は「本年度は定植後から生育も順調で、長雨による大きな影響もなく品質も良好。今後の着果段数も安定しているため、過去最高の出荷を目指せる」と語っています。

販売担当の松田浩幸職員も「品質・玉太りは良好だ。今後、出荷量は増える見込みなので、攻めの販売を行っていきたい」と熱く語っていました。

出荷は霜が降る11月までの長期戦となります。

中部ミニトマト部会 出荷増と更なる品質強化で 9500万円の販売額見込む

新機種導入で品質・玉揃いがさらに徹底！

中部ミニトマト部会は、作付増反による出荷増で（7月初旬の取材時）連日、選果作業に追われています。

取材時、日量約500ケース（1ケース3kg）を九州管内をメインに出荷しており、本年度から導入した新しい簡易選果機により、品質・玉揃いの徹底がさらに強化され安定供給へと繋がっています。

ピーマン部会 目標販売高7200万円 基本方針の4項目を掲げる

挨拶する片倉長久部会長

今季はサカタ種苗のキャロルスター及びトキタ種苗のサンチェリーピュアを導入し、作付面積は3.4ha（前年比108％）、生産者数20戸（同111％）。11月下旬まで出荷量6万ケース（1ケース3kg）を計画し、約9500万円の販売額を見込んでいます。

指導員の笹原職員は「現在は病害の発生も少なく、生育も回復傾向にある。着果も良好でL・M中心の出荷となっている。今後は樹勢維持と安定出荷を目指したい」と語り、販売担当の岩下職員も「昨年に比べると出荷量は増える見込みとなっており、今後はさらに品質・玉揃いが良くなるので、自信を持って販売をしたい」と期待感と意気込みを語っていました。

ピーマン部会は7月6日、2016年産出荷査定会を生産者ら約70人が参加し蘇陽集荷場で開きました。

査定会を前に片倉長久部会長が「今年も安全安心な阿蘇ピーマンを消費者に届けると同時に、高品質な品物を出荷していきましょう」と挨拶しました。

生産販売基本方針として、品種特性に見合う基本管理の徹底、青果物CCと連携し多様な取引先の検討、安定した販売へ繋がる情報交換など4項目を掲げました。販売担当の上田裕樹職員は「選別を徹底することで消費地からの評価も高まる。他産地に負けないように高品質のピーマン出荷を続けたい」と話していました。

ピーマン部会出荷査定会の様子。同部会では、県内外へ12月まで出荷計画を立てており、出荷数量5万ケース（1ケース4.5kg）、販売金額7,200万円の売り上げを予定しています。

生産部会の生育・出荷状況／青壮年部支部の活動報告

野尻地区ユリ、11月上旬まで出荷 高品質安定出荷で高い市場評価

生育状況確認中の担当職員

7月中旬、野尻地区ではユリの出荷が始まりました。同地区のユリは他産地にも引けをとらない品質として、市場からの増産要望を受け本年は生産者が1人増え、栽培面積も45ａ（前年比112％）となりました。

生産者の一人である瀬井美雄さんは「ユリは気候による影響で開花の前進化などが発生しにくく、計画出荷ができる。高い評価を頂いているので、信頼を損わないように高品質のユリを作り、市場との意見交換も大事にしていきたい」と話していました。

市場担当者も「例年、生理障害も病害虫の被害も見られず、安定出荷して頂き、買参人からの信頼も厚く売れ筋商品となっているので、更なる増産をしてほしい」と期待をしていました。

出荷はお盆やお彼岸時期を中心に11月上旬まで続き、最終的には5万4000本を予定しています。

「バケツ稲で食育活動」 JA阿蘇青壮年部長陽支部

青壮年部長陽支部は5月27日、南阿蘇西小学校4年生とバケツ稲作りをしました。昨年に続き3年目の取り組みとなります。当日は盟友ら3人が子供たちのバケツ稲作りを手伝いました。

同校には、熊本地震の影響で一時的に他の小学校に通っている生徒もいますが、当日は地震前の4年生全員分のバケツが用意され、残っている生徒たちが今年は古代米の一種である「緑米」を植えました。支部事務局の後藤真智職員は「自分たちで育てることで、食べ物のありがたみを知ってほしい」と話していました。

田植えが済んだバケツ稲／バケツ稲作りに挑戦する子供たち（写真右）

「美味しい芋ができますように♪」 青壮年部白水支部が「芋苗植え」

5月31日、青壮年部白水支部の盟友ら5人は白水小学校で、食育活動の一環として、食べ物への感謝の気持ちと農作業を通して農業の面白さを伝えたいと、同校の児童らと一緒に隣接する学校畑で芋苗植えをしました。

児童らは班ごとに7ａの畑に丁寧に苗を挿していき、「植え方を教えてもらったので簡単にできた」とか「大きな芋が出来るのが楽しみ」といった感想を語っていました。田上純裕支部長は「自分たちで育てて、収穫する喜びを経験してほしい」と話し、大津昭一校長も「このような作業を通して、地元の人との繋がりや会話を大事にしていきたい」と、感想を述べていました。

（写真＝芋苗を植える児童と青壮年部盟友）

環境美化で恒例の「除草作業」 青壮年部一の宮支部

除草作業中の盟友

当日、作業に参加した盟友の皆さん

青壮年部一の宮支部は、10年前から続けている環境美化作業を6月29日、盟友10人が参加してＪＡ阿蘇四季彩一の宮直売所一帯で行いました。

石松秋洋支部長は「忙しい中、盟友に参加して頂いたことに感謝です。盟友との絆も深まり、やりがいを感じているので今後とも継続していきたい」と抱負を語っていました。

支援物資で防災頭巾作り 募金活動も実施＝女性部

募金活動をする女性部

JA阿蘇女性部は、県外のJA女性組織協議会より支援物資と送られたバスタオルを活用し、防災頭巾作りをしました。この活動には管内で甚大な被害を受けた西原支部以外の6支部が取り組みました。

防災頭巾は「家の光」でも紹介された「ほどけて使える防災頭巾」を改良し作成した阿蘇オリジナルで、頭巾の中には歯ブラシなど身の回り品が入っており、避難先でも役に立ちます。

防災頭巾は女性部が6月に募金活動を行った際には、募金に応じた人にお礼の品物としても贈られました。

女性部員は「支援物資を無駄なく活用でき、募金活動の際にはお礼の品として配布できて、少しでも防災への備えに役立つことが出来たかもしれません」と話していました。女性部担当の今村千春職員も「今後は小学校などに出向き、防災頭巾作りを子供たちと一緒にしていきたい」と抱負を語っていました。尚、寄せられた募金は、被災地で必要とされている品物に換えて届けられています。

防災頭巾作りをする女性部の皆さん

出来上がり包装された防災頭巾

＝ふるさと大好き＝ 坂本善三美術館（小国町）

「坂本善三美術館」は日本で唯一、全館畳敷きだ。「グレーの画家」「東洋の寡黙」と呼ばれ、世界でも高く評価される抽象画家、坂本善三氏。

氏は故郷を愛し、亡くなるまで熊本で制作を続けた。美術館は、遺族から生地である小国町に多数の作品が寄贈されたのを機に、1995年に小国町黒渕に開館した。

同館は、小国町下城に建てられた古民家を移築。加えて小国特有の置き屋根式の蔵を模した展示棟と収蔵棟が新築され、隣接する鉾納社とともに熊本県の景観賞に選ばれた。

全収蔵作品は1300点に上る。展示室は畳72畳という独特で落ち着いた空間が広がり、常時20～30点の作品が展示され、2、3ヵ月ごとに入れ替えられている。休憩室や町民ギャラリーなども併設され、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

現在、シリーズ「アートの風」で「藤本高廣のくず鉄魂地産地生」が10月まで制作・展示されている。入館料は一般500円、大・高生400円、中・小生200円（レポート＝三笘真弓）

坂本善三美術館。奥建物右手前に見えるのは「藤本高廣のくず鉄～」の展示作品

平成28年4月の地震災害により被害を受けた皆様へ

この度の地震では、被害を受けられた皆さま方に心からお見舞い申し上げます。今般の地震災害により、国税についての申告、申請、請求、納税などを期限までにできないときは、所轄税務署長への申請により、次のような期限の延長や納税の猶予などができる場合があります。

1　申告、納付などの期限延長（国税通則法第11条）
2　納税の猶予（国税通則法第46条）
3　予定納税の減額（災害減免法又は所得税法第111条）
4　所得税の軽減免除等（災害減免法又は所得税法第72条等）
5　相続税・贈与税の軽減・免除（災害減免法）
6　源泉所得税の徴収猶予又は還付（災害減免法）
7　災害等による消費税簡易課税制度（不適用）届出に係る特例（消費税法第37条の2）
8　納税証明書の無料発行（国税通則法施行令第42条第4項）

詳しくは熊本国税局のホームページ（www.nta.go.jp/kumamoto又は熊本国税局「検索」）をご覧いただくか、最寄りの税務署にお尋ねください。
阿蘇税務署（電話 0967－22－0551）
※自動音声案内に従い「2」を選択して下さい。

理事会・監事会報告

■平成28年度 第5回理事会

日時　平成28年6月17日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
5月末実績報告について
監査報告（平成27年度決算期末監査）
　1）第15回通常総代会の開催について
　2）余裕金運用規程の一部改正について（案）
　3）余裕金運用等にかかるリスク管理手続の一部改正について（案）
　4）平成28年熊本地震災害被害者に対するローン金利について（案）
　5）農業経営維持緊急特別対策資金の一部変更について（案）
　6）役員賠償責任保険継続加入と保険料徴収について（案）
　7）畜産近代化リース事業 借受申請について
　8）平成29年度大卒（新卒）職員募集について
　9）小国町新電力会社への出資について（案）
報告事項
　1）全般統制に関する評価報告書について
　2）平成28年度米麦等棚卸監査実施要領について
　3）53回 夏の農機・自動車展示会の開催について
　4）平成28年熊本地震自然災害被害状況報告について（共済）
　5）不祥事再発防止策取組状況（5月分）報告書について
　6）平成28年熊本地震による被災農林漁業者への支援対策について
4. 閉会

■平成28年度第6回理事会

日時　平成28年7月5日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
　1）業務報告書の行政庁への提出について
　2）事業のご案内2016（ディスクロジャー誌）について
　3）事業のご案内2016（ミニディスクロージャー誌）について
　4）平成28年度 各理事の報酬について（案）
　5）平成29年度 JA阿蘇職員募集について
　6）日銀資金の借入について（案）
　7）平成28年熊本地震の住宅再建支援にかかる
　　住宅関連ローン金利引き下げについて（案）
　8）新任理事の専門委員会所属について
　9）信用事業規程の修正について
　10）職員夏期賞与支給について
報告事項
　1）常勤役員の他の団体理事等への就任について
　2）平成28年度座談会開催状況について
　3）平成26年産米 最終精算について
　4）平成28年度JA阿蘇期中監査実施計画書について
　5）内部監査実施状況報告書について
　6）平成28年6月20.21.22日豪雨被害状況について
4. 閉会

■平成28年度第7回理事会

日時　平成28年7月28日午後2時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
委員会報告（経済専門委員会）
6月末実績報告について
　1）平成27年度決算監事監査回答書について（案）
　2）定款の修正について
　3）保管事業規程の制定について（案）
　4）平成28年熊本地震災害被害者対応について（案）
　5）熊本地震災害復旧事業における固定資産復旧計画について（案）
　6）強い農業づくり交付金（熊本地震災害復旧）対策事業における
　　施工方法および固定資産取得委員会の選任について（案）
　7）南部地区セルフSS土地の交渉について（案）
報告事項
　1）平成28年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの
　　進捗状況（平成28年6月末）について
　2）平成28年度JA阿蘇不祥事未然防止のための行動計画
　　28年6月末進捗状況について
　3）JAの経営状況に関する事項の報告「経営管理資料」について
　4）第24回JA熊本県大会決議の進捗状況について
　5）第15回通常総代会意見・要望について
　6）平成28年熊本地震被害状況報告について
　7）平成28年熊本地震の見舞金・支援物資明細について
　8）不祥事再発防止策取組状況報告書（28年6月末）報告について
　9）平成28年度産米の出荷予約数量と出荷予約金について
4. 閉会

●平成28年度第4回監事会

日時　平成28年7月4日午後1時
場所　本所2階第1会議室
1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
　1）平成28年度監事報酬（案）について
　2）JAの経営状況に関する事項報告「経営管理資料」について
　3）平成28年度米麦等棚卸監査人員配置について
報告事項
　①常勤監事業務報告について（5月、6月）
　②常勤会議報告について（5回、6回、7回）
　③行事予定について
4. 閉会

訂正とお詫び

JAあそだより87号13頁「JA阿蘇退職者を表彰」記事で、お名前が今村孝誠さんではなく、今村和夫さんでした。訂正をするとともに、関係者の皆様にお詫び申し上げます。

◆ＪＡ阿蘇職員異動のお知らせ（平成28年8月1日発令）

氏　名	新　辞　令	旧　辞　令
山内美奈子	阿蘇町中央支所金融課金融係	共済部保全課保全係
藤澤友里恵	西原支所金融共済係	高森中央支所金融共済課金融共済係

「ＪＡ阿蘇きらり★」

小国郷中央支所購買課農機センター

ほんだ　たかひろ
本田貴裕

★趣味＝野球観戦／★一言コメント＝農機センターに配属されて2年目になります。農機具整備の技術の向上を目指し、組合員の方々と交流を深め農業に貢献できるよう頑張ります。

営農部園芸課販売指導係（南部地区担当）

ふじよし　ゆうや
藤吉友也

★趣味＝野球（高校時代野球部）、フリーラインスケート（最近、始めました）／★一言コメント＝入組して2年目となる今年、高森集荷場で集荷・販売業務を担当しています。先輩たちに負けないように、生産者の所得アップのために精進します。高森特産の「ひごむらさき」ぜひ一度、ご賞味ください(^_^)/

JA阿蘇「夏休み」イラスト違い探し

（出題：イラストレーター みやたみゆき）

左右2枚のイラストには、違っているところが5か所あります。探してみてください！

※答えは15ページにあります。

平成26年産米最終価格について

時下、益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。
26年産米の精算が終了し、最終精算金を平成28年7月28日に入金いたしました。
今後もJAへの全量出荷にご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

平成26年産うるち米精算価格表

【60kg】

品種	等級	JA特栽米			一般米			特栽米と一般米の価格差
		仮渡金検査時	**最終精算**	合計金額	仮渡金検査時	**最終精算**	合計金額	
コシヒカリ ミルキークィーン	1	11,040	**1,860**	12,900	10,240	**1,860**	12,100	800
	2	10,380	**1,860**	12,240	9,580	**1,860**	11,440	800
	3	9,360	**1,860**	11,220	8,560	**1,860**	10,420	800
森のくまさん	1	10,380	**1,620**	12,000	9,780	**1,620**	11,400	600
	2	9,720	**1,620**	11,340	9,120	**1,620**	10,740	600
	3	8,700	**1,620**	10,320	8,100	**1,620**	9,720	600
ヒノヒカリ	1	10,380	**1,620**	12,000	9,780	**1,620**	11,400	600
	2	9,720	**1,620**	11,340	9,120	**1,620**	10,740	600
	3	8,700	**1,620**	10,320	8,100	**1,620**	9,720	600
あきげしき	1	9,300	**1,760**	11,060	9,000	**1,760**	10,760	300
	2	8,640	**1,760**	10,400	8,340	**1,760**	10,100	300
	3	7,620	**1,760**	9,380	7,320	**1,760**	9,080	300
ひとめぼれ	1	9,000	**1,720**	10,720	8,700	**1,720**	10,420	300
	2	8,340	**1,720**	10,060	8,040	**1,720**	9,760	300
	3	7,320	**1,720**	9,040	7,020	**1,720**	8,740	300
いただき	1	9,000	**1,670**	10,670	8,700	**1,670**	10,370	300
	2	8,340	**1,670**	10,010	8,040	**1,670**	9,710	300
	3	7,320	**1,670**	8,990	7,020	**1,670**	8,690	300
にこまる	1	9,300	**1,600**	10,900	9,000	**1,600**	10,600	300
	2	8,640	**1,600**	10,240	8,340	**1,600**	9,940	300
	3	7,620	**1,600**	9,220	7,320	**1,600**	8,920	300
くまさんの力	1				9,000	**1,600**	10,600	
	2				8,340	**1,600**	9,940	
	3				7,320	**1,600**	8,920	
その他	1				8,160	**1,850**	10,010	
	2				7,500	**1,850**	9,350	
	3				6,480	**1,850**	8,330	

今回の入金単価です。

※なお、平成28年産米出荷予約金も7月28日に入金いたしておりますが、例年ですと7月中旬の入金処理となっておりましたが、本年につきましては熊本地震による水田の作付予約取り纏めに時間を要し平年より 2週間ほど遅くなりました事をお詫び申し上げます。

14頁の「イラスト遠い探し」の答え　①月　②お母さんの帯　③スイカの数　④女の子の浴衣の柄　⑤猫のしっぽ

厚生連ニュース

8月 心筋梗塞について

心筋梗塞とは…

血管の中に血の塊(血栓)ができ、心臓の筋肉(心筋)に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)がほとんど詰まることで血流が止まってしまい、心筋の一部が壊死してしまう状態のことです。全身へ血液を送ることができなくなるため、命に関わるとても怖い病気です。

心筋梗塞の症状は…

30分以上続く胸の痛み、冷や汗、吐き気、呼吸困難などがあります。
人によっては肩や背中、首などに痛みの放散を感じる場合もあります。

心筋梗塞を予防するために…

心筋梗塞にならないためには、動脈硬化の進行を予防することが大切です。日頃から次のようなことに気をつけましょう。

- ○禁煙する
- ○塩分・糖分・脂肪分を摂りすぎない
- ○バランスのよい食事を摂る
- ○適度な運動をする
- ○ストレスを避け、規則正しい生活を送る
- ○高血圧・糖尿病・脂質異常の早期発見を

※強い胸痛を感じたらすぐに医療機関を受診しましょう。

熊本県厚生連診療所 所長 粟津 雄一郎
TEL096(328)1083 FAX096(328)1258